



大阪市立大学
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第22号

2006年（平成18年）12月1日発行

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06(6607) 8 3 7 3

FAX 06(6605) 2 7 6 9

発行人 貴志 義昭



埜口良二 作

《 目 次 》

表紙絵「浄瑠璃寺」……………1	学科の近況・会員短信(バイオ工学科)……………11
貴志会長・東名誉会長の挨拶……………2	〃 (知的材料学科) ……11～12
平成18年定年恩師の寄稿……………3	〃 (環境都市工学科) ……12
学科の近況・会員短信(機械工学科) ……3～4	学友会だより・同窓生著書の紹介……………13
〃 (電気工学科) ……4～5	平成18年工学部卒業生名簿……………14
工学部・工学研究科の教育体制の現況……………5	〃 工学研究科修了生名簿……………15
学科の近況・会員短信(応用化学科)……………6	〃 工学部入学生名簿……………16
〃 (建築学科)……………7	〃 工学研究科入学生名簿……………17
〃 (都市基盤工学科)……………8	工学部同窓会事務局年報……………18
〃 (応用物理学科) ……9～10	平成19年評議員会案内・工学部電話番号・後記……………19
〃 (情報工学科)……………10	“ 〃 工学部同窓会の集い”の案内……………20

ごあいさつ

会長 貴志 義昭



工学部同窓会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。平素から同窓会活動に多大なご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今年も年末を迎え、皆様にとってどのような一年であったでしょうか。

明るい話題を提供したいと思いつつも、

近年目にし耳にする話は、やはりどうしてこうなるのと言うようなことが多いのはまことに残念と言わざるを得ません。

私の場合、少しほっとするのは、聞きたくない話題に本学や関係者が関わっていないことがわかった時です。

工学分野では、現象や効果の客観性を示すために数値表示をし、数値目標に近づけ達成することを通常行います。その活動に関わるものの共通の目標ともなります。数値目標は元来理工系のものであったと思いますが、すべての分野に取り入れられ広く成果の評価に用いられています。

何気無く済ましたり、なあなあで済まして問題が起これないのなら幸せなことで、ほとんどの場合数値目標は必要であり、不可欠ともいえます。

数値目標には、それに関わる前提条件があり、出た結果を偽りなく表示することで、フィードバックをしたり、次のステップへ進む判断をする役割があります。

目標達成のため、数値目標の分母や分子を増減させたり、あるいは算定結果を改ざんするなど、いずれ綻ぶその場しのぎで、とんでもない不幸な結果になっています。

このような悪循環にはまっているなど感じた時に、勇気を持って振り返ることが必要ではないでしょうか。さらに先輩や他分野の方のお話を伺ったりする心の余裕を持ちたいものです。

私は、このような場のひとつに工学部同窓会があり、総合大学の同窓会である強みを活かしていただきたいと思います。

ところで、工学部同窓会HPで発表しましたように、特別基金の有効活用策の一環として、東工学研究科長のご提案による支援活動が具体化しました。

また、HPへの投稿がかなり増えてきました。さらにご活用をお願いいたします。

それでは、今後とも同窓会活動の活性化に対する皆様のご意見・ご提案をお寄せいただくようお願い致します。

最後になりますが、来年が皆様にとってよき年であることを祈念いたします。

(建築・昭和41年卒：大阪府日中経済交流協会 常任理事)

ご挨拶

名誉会長 東 恒雄



今年は11月初旬でもポカポカ陽気。紅葉は例年に比べて1ヶ月近く遅れると予想されています。卒業生の皆様には元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

一昨年と昨年の会報でも触れましたが、さまざまな分野でグローバル化が進行するなか、技術士のレベルを国際的に相互

に承認しあう環境になってきており、日本の工学部教育も「工学教育」から「技術者育成教育」に変わりつつあります。

国際的に通用する教育プログラムを第三者機関「日本技術者教育認定機構 (JABEE)」が審査して認定する制度が確立しました。一昨年申請・昨年認定の機械、土木(現都市基盤)工学科に引き続き、昨年には電気、応化、建築、応物、知的材料、環境都市の6学科がJABEE認定を申請して審査を受け、今春に認定されたことをまずご報告いたします。認定された学科の卒業生は修習技術者(技術士補)となり、技術士の一次試験が免除されますので該当する卒業生はご留意ください。

市立大学は今年4月1日付で法人化されました。法人の名称は「公立大学法人 大阪市立大学」です。法人が大阪市立大学を設置し、管理を行います。大阪市との関係でいえば、従来は交通局や水道局などの局と同格の「大阪市立大学」でしたが、大阪市の独立行政法人となりました。法人の経営は大阪市からの運営交付金と授業料や科学研究費補助金・受託研究費などの自己収入を原資として行われます。法人化のメリットの一つ挙げると大学運営における自主性・自律性が拡大することですが、学長を兼ねた理事長のリーダーシップのもとで教育・研究の質の向上を図り、これまでも増して独自性を発揮して大学間競争の環境下で大学を発展させることが強く求められます。

大阪市の財政再建を目指した市政改革の一つ「5年間で人件費20%削減」が大学にも適用されました。すでに平成14年度から5年間で教員10%削減が課せられていましたので、今回の削減を合わせると、工学部の専任教員は平成13年以前の140人から平成23年には100人余りにまで減ることになります。学部・研究科として教育・研究の質を向上させるには現在の10学科を維持することは困難です。4~6学科に再編して平成21年4月に発足させる方向で検討しています。企業や官公庁では組織の規模縮小や改組により業績や活気が向上した例がいくつもあります。ここが実力の出しどころと、先生方には学科再編に向けた努力をお願いしているところです。

まことに厳しい状況ではありますが、教員一同、教育・研究の一層の充実・発展に努めておりますので、卒業生の皆様には激励とご支援をお願い申し上げます。

(大阪市立大学工学研究科長兼工学部長・工学研究科教授)

表紙絵作者の略歴

1926年：大阪市大正区生れ。
1947年：大阪市立都島工業専門学校土木工学科卒業。
運輸省第三港湾建設局・第四港湾建設局、
大成建設(株)、第一建設設計(株)に勤務。

表紙絵の原画

原画は「浄瑠璃寺」と云うタイトルで、平成5年4月開催の第20回こうべ市民美術展における入選作。

大阪市と共に

森 雄造



私と大阪市との縁は小学1年生の夏に大阪市立堀川小学校へ転入したところから始まり、以来大阪市と共に歩んできた60年近い人生でしたが、このたび無事一区切りをつけることができほっとしています。

中でも強いのは45年にもおよぶ市立大学との縁です。市立大学に対する大阪市からの期待を最も強く感じたのは、西尾市長の時代に経理局を中心として発生したスキャンダルに象徴される大阪市制の構造疲弊が表面化した時です。構造疲弊から脱却し大阪市制を建て直す切り札として西尾元市長は、市立大学経済学部磯村隆文教授を改革推進担当の助役として招聘されたのです。一朝事あれば大学がこのような役に立てるとということが示され、大いに勇を感じたことを覚えています。「市民のために」という大学の基本
[右段上部へつづく]

理念がこれほどわかりやすく示されたことは私の35年の在職期間を通じて他に記憶はありません。その間、特に教授昇格後はこのような可能性、期待にこたえる先頭に立つわけで、そのための緊張感は非常に重いものがありました。はじめに述べました定年退職に伴う開放感はこの緊張から解放されたことによるものではないかと推測しています。

堀川小学校や市立北稜中学校に在学中わたしは模型飛行機、鉄道模型、昆虫採集標本などいわゆる工作に夢中になっていました。府立北野高校卒業後工学部に進むことにしたのも、工学部卒業後大学に残り職業的研究者になる決心をしたのもこの原体験が大きく関わっています。

新しい人生を歩むにあたり「森工房」を開業しました。「低温溶液による生物分子自己組織化薄膜作成法の開発」、「コンサルティング」と共に、子供の時に楽しめました鉄道模型や模型飛行機など様々な工作・工芸も合わせてこれまでも増して自由に実験・物造りを楽しみたいと思っています。
(大阪市立名誉教授・元工学研究科教授)

機械工学科

機械工学科の近況

佐藤 嘉洋



卒業生の皆様にはご健勝にてご活躍のことと存じます。本学も4月1日より公立大学法人大阪市立大学という新しい名前前でスタート致しました。大きな変革ですが、機械工学科の教育・研究体制に大きな変化はありません。

人事面では、応用数学研究室の谷村省吾助教授が10月1日付けで京都大学に転出されております。また、生産加工工学分野の川上洋司講師がヘルシンキ工科大学での1年間の研究生生活を終え9月中旬に帰国致しました。

今年の新入生は29名でしたが、近年になく多くの3名的女子学生を迎えております。大学院では機械物理系専攻前期博士課程（修士課程）の入学者が39名で、後前期博士課程（博士課程）の入（進）学者は6名（内、社会人特別選抜入学4名）でした。前期博士課程へは、例年7割程度の学生が入学希望致しますが、後期博士課程への進学希望者が少なく苦慮しております。卒業生の皆様の中で「博士になってステップアップ」とお考えの方は是非ご連絡下さい。職に就いたまま後期博士課程で勉学できるよう様々な工夫をしております。卒業（修了）予定学生の進路ですが、学部4回生34名のうち大学院進学者が24名、企業等への就職内定者が7名、その他3名です。また、大学院の前期博士課程2回生35名は、企業等への就職希望者が33名で全員が早々に内定しております。今年の特徴は、自動車関連の企業を希望する学生が多い事でした。
[右段へつづく]

本年10月にはJABEE（日本技術者教育認定機構）の中間審査を受け、概ね良好な評価を戴きました。大学は今後、善くも悪くも大きく変わります。この激動期に在り、卒業生の皆様には、これまでも増して一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(工学研究科機械物理系専攻長 兼 機械工学科主任教授)

卒業40周年同窓会(機械・電気合同)

斎藤 厚士



昭和41年卒業、工学部機械工学科、電気工学科合同の卒業以来40年の同窓会を、5月13日(土)大阪市内のホテルで、26名出席(卒業時64名)のもとに開催いたしました。我々機械工学科、電気工学科は2年間、教養課程が同じクラスであったため連帯感があり、同窓会等はいまだに合同で開催しております。卒業後、同窓会は数回開催致しましたが、今回は、卒業以来40年と節目の同窓会であり、また、時間に余裕のある方も増えたせいも、北は栃木県から南は福岡県より各地から、また卒業してから初めての方もありました。久しぶりに会い、名前と顔とがすぐに一致しない方々もありましたが、すぐに昔にかえり、学生時代のこと、会社時代のこと、そして、近況報告等と語り合い、時のたつのを忘
[P 4 左段上部へつづく]



〔平成18年5月13日・大阪市内にて〕

れてしまうほどでした。久しぶりに「大阪市立大学逍遙歌」を声高らかに歌い、二次会で更に語り合いお互いに青春にもどった、本当に楽しい一時でした。また、参加者の一人が持参の入学当時、杉本町学舎で撮影した学生服での全員の集合写真と今の様子を見比べ、いまさらながら40年の人生の歩みを感じた次第です。

卒業以来、40年間各分野で活躍し、今なお現役で同様に活躍の方も多くあります。また、第一線からしりぞき今までの経験等を生かして活躍の方、そしてまた、それぞれの趣味等をしている方と多士済々でした。これからの人生を、お互いに情報交換をしながら、健康で、実りあるものにしていきたいと思っています。

今回は3年後に開催することにし、再会を約して散会いたしました。
(機械・昭和41年卒)

近況報告

中川 政輝



同窓会の皆さまいかがお過ごしでしょうか。私が前期博士課程を修了したのが平成6年でしたので、すでに12年の歳月が流れました。卒業後の12年間は日本経済にとってバブル崩壊から再生への道であり、学業などはそっちのけで自由奔放に過ごした大学生活から一転して社会の厳しさを肌身で感じ、様々な貴重な体験ができたと思っております。

現在私は自動車部品メーカーで設計開発業務に携わっておりますが、高品質・高機能・低コストを両立させるものづくりを実現していかないと厳しい国際競争に打ち勝っていけないとの認識のもと日々業務に励んでおります。

自動車業界はトレンドの移り変わりが早く、常に最先端を目指さないと勝ち抜けないため、新しいことをしたいと願う開発者にとってはいい環境が整っていると思います。機械科出身者にとっては最高の修行の場になるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、同窓生の皆さまには様々な業界でご活躍とのことで、たまにお会いしては昔話など交えながらお話を伺えるのを楽しみにしております。

(機械・平成3年卒・6年工学研究科前博修了・アイシン・エイ・ダブリュ(株))

電気工学科

電気工学科の近況

會田 田人



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成16年4月より市大に奉職し、教務委員とJABEE担当を務め、3年目の今年、電気工学科の主任を仰せつかりました。この間に携わったカリキュラム改訂やJABEE受審などの大学業務を通して、電気工学科が変革を迫られていることを肌で感じてきました。

さて、電気工学科の近況をご報告させていただきます。現在、電磁気学分野(南、武智)、電子回路学分野(會田、高橋、重田)、光電子工学分野(向井、宮崎)材料計測工学分野(青笹、草開、田中)、電磁機器工学分野(辻本、村治)の12名で教育研究を進めています。しかし、4月の法人化に始まり、20%定員削減、新規採用凍結、学科再編など、次々と方針が出され、急激な変革の波が押し寄せてきたことを実感しています。
〔右段へつづく〕

今年度の学部卒業予定のうち大学院進学希望者は20名で、18名が本学、2名が他大学の前期博士課程に合格しました。また、他大学から本学に3名が合格しています。このような外部との人的な交流が良い刺激材料になることを期待しています。一方、後期博士課程については進学者が少なく、社会人に期待せざるを得ないのが実情です。今年度は、10月入学の3名の社会人を加え、社会人7名と前期課程からの進学者1名の計8名が在籍しています。

今年の就職については、バブル景気以来の売り手市場とのことで、3月始め頃から大手電機メーカーをはじめとする多くの企業から人事担当者やOBが大学を訪れ、優秀な学生の獲得に向けて熱心な会社説明が行われました。ついこの間の就職氷河期が嘘のように、今年度卒業予定の修士19名と学部9名の殆どが希望の就職先に内定しています。

末筆ながら皆様の益々のご発展をお祈り致します。

(工学研究科教授 兼 電気工学科主任教授)

近況

吉武 博信



皆様お元気でしょうか。私は、電機メーカーでモータの位置センサであるエンコーダの開発に携わっています。就職前の「パワーエレクトロニクス」というイメージとは異なり、センサから出力されるアナログ信号と対峙し、呼んでもいない（そのつもりで設計している）ノイズ

に悩まされております。

さて、市大に入学から10年以上慣れ親しんだ大阪から故郷の北九州に戻って5年の年月が過ぎました。高校まで過ごした街とはいえ、戻ってきた当初は再発見の連続でした。まずは、魚が美味しいこと。玄海灘で鍛えられた魚は、普通にスーパーで買うものでも美味しく、かつ値段も手ごろです。あるエピソードで、北九州の人が旅行代理店で「魚のうまいところに旅行したいんだけど」と相談を持ちかけたところ、「それなら、どこにも行かなくて北九州で食べたら」との話があるほど。また、全国でも有数のたけのこの産地です。2月になると、たけのこの刺身が食べられます。さらに、競輪の発祥の地であったり、焼きうどんの発祥の地であったり。自然も結構残っていて、「工場の街」という社会科教科書の単調なイメージから私自身脱却した気がします。

そのほか、門司港レトロやスペースワールドなどもありますので、福岡県といえば「博多」と思われるでしょうが、大阪からでは、新幹線で博多の1つ手前の駅ですのでぜひお立ち寄りください。

最後になりましたが、久しぶりに大阪に行き大阪の再発見をしたいと思っています今日この頃です。

(電気・平成5年卒・13年工学研究科後博修了・安川電機(株))

近況報告

露野 公丈



今年、社会人生活10年目を迎えました。

仕事に趣味にと、忙しくも楽しい毎日を過ごしています。幾つか有る楽しみの中で、今一番夢中になっているのは「モノクロ写真」です。自分の感じたイメージをそのままに、自らの手で紙に焼き付ける作業は、何とも言えない楽しさと喜びがあります。

また写真を始めてから、些細な出来事や風景にも目が行くようになりました。

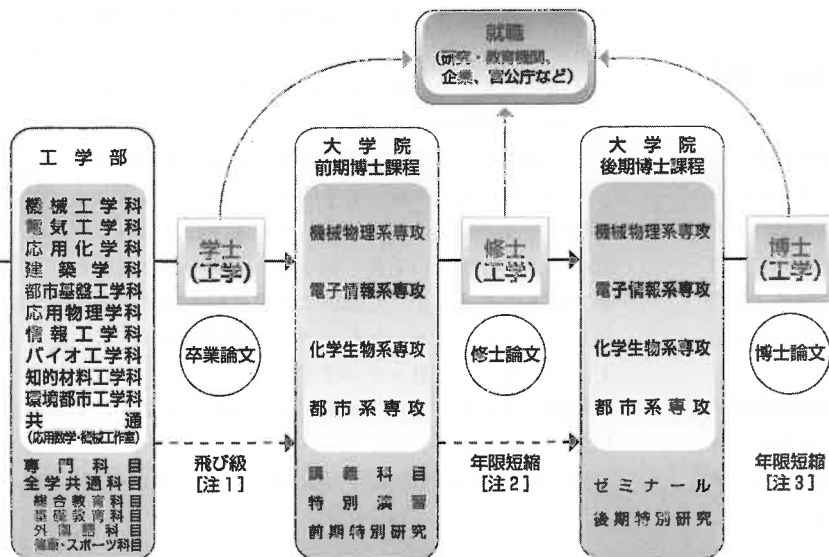
週末には妻と二人で出掛けることが多いのですが、ちょっとした散歩にも鞆にはカメラを入れるようにしています。撮影に夢中になるあまり、妻を待ちぼうけにさせることが多々ありますが、それでも文句を言いながらも、しょうがないなあと許容してくれる妻に感謝しています。

将来的には、自分なりのテーマを決めて、そのテーマを目標に撮って行きたいと考えています。テーマはまだ摸索中ですが、時間をかけてゆっくりと見つけて行きたいと思っています。そして、機会があれば個展なども開ければと願っています。

しかし残念ながら、手間のかかるモノクロ写真が廃れる方向に向かっています。モノクロ写真に限らず銀塩写真全体にいえることですが、カメラはもちろん、フィルム、印画紙、感材等の生産が相次いで中止されています。将来性を考えると、事業として成り立たないというメーカーの考えも当然の事でしょう。自分もメーカーに勤めていますので、その方針は取らざるを得ないと考えます。しかし、売上や生産性のみにとらわれず、ゆとりのある「物作り」を考えることも大切だと思います。私はその心を忘れないで、仕事も趣味も打ち込んで行きたいと思っています。

(電気・平成7年卒・9年工学研究科前博修了・NECエレクトロニクス(株))

工学部・大学院工学研究科の教育体制の現況



注1：成績優秀者は3年次に大学院を受験することができます。

注2：成績優秀者は前期博士課程（標準2年）を1年短縮して後期博士課程に進学することができます。

注3：前期博士課程修了者で優れた研究業績を上げたものは1年以上在籍すればよい。

応用化学科の近況

松本 章一



卒業生の皆様、お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思いますが、大学は、2006年4月の独立法人化を境に、あらゆる面で変わりつつあります。

応用化学科は、現在11名体制で、無機工業化学、有機工業化学、高分子化学、工業物理化学、材料化学の5分野に属する8研究室が、日夜フル回転しています。昨年度(2005年度)は、34名の学部卒業生を送り出し、4月には30名の新入生を迎えました。卒業生のうち23名が本学の化学生物系専攻に進学しています。学外、企業等との共同研究の連携も積極的に進めており、社会にしっかり還元できるような成果も生まれつつあります。共同研究を契機に、後期博士課程の社会人入学制度を利用して、学位取得する卒業生が増えています。

最近、海外の大学で、化学系学科の存続が危機にあるという話を聞きます。「化学は終わったのか？」などという挑発的なタイトルの記事さえ目にします。基礎科学の中でも最重要科目のひとつである化学は、現代社会の中で果たす役割が当たり前すぎて表面に出てこないため、一般人には、化学の貢献が見えにくくなっているのでしょうか。かといって、応用化学という領域が、材料やものづくりには欠かせないものであることは、昔も今もなんら変わりありません。大学の顔は時代とともに変わりますが、本学科に流れ続けるよい部分はしっかり残していきたいと考えています。また、外への情報発信が大切であると考え、現在はまだバーチャルな段階ですが、公立大学の化学系学科や研究室間で情報を交換し、ネットワークを広げるための“化学プラットフォーム@関西”も動き始めています。市大らしさを残しながら、杉本町から社会に、そして世界に向けて発信できるよう、教育と研究の両面を一層充実させていきたいと考えています。

卒業生の皆様には、今後ともご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(工学研究科教授 兼 応用化学科主任教授)

近況報告

百木 雅善



就職してから10年が経とうとしています。5年間の研究開発を経験した後、現在は情報検索の専門者(いわゆるサーチャー)として競合他社の技術動向や出願前の先行文献調査などに従事しています。最近ではこれらの業務に加え、研究テーマの全社マネジメントも行っており、新事業の創生にも携わるようになってきました。

今回の執筆依頼を期に5年間の研究開発と現在の管理部門での経験から最近感じていることを書いてみようと思います。

研究開発では紙を製造する時に使用される薬品の一つである

[右段上部へつづく]

る紙力増強剤と呼ばれる、文字通り紙の強度を高める薬品を開発していました。これは、ポリアクリルアミドを主成分とする水溶性ポリマーで、イオン性モノマーとの共重合を工夫することによって、製紙会社の様々な要求性能に対応した製品です。ところが、入社6年目になって現在の業務である調査関係の部署に異動となりました。また一から仕事を覚えなないといけなくなったのは仕方がないとしてその時最も苦勞したのが、他の研究部門の製品および技術内容を理解することでした。恥ずかしながら、入社して5年も経ていたにもかかわらず他の部門の製品(技術)のことをほとんど理解していませんでした。開発中の製品に関する技術分野に精通することは当然ですが、周辺の技術分野への関心が薄れてしまっただけで新たな発想も生まれてきません。私は管理部門に異動して初めて如何に視野が狭くなっていたかを痛感しました。もちろん、皆さんは私とは違うと思いますが、私のようにならないためにも、隣の部署が何をしているのか関心を持つとともに、いい意味での干渉をしてみても如何でしょうか。

(応化・平成7年卒・9年工学研究科前博修了・荒川化学工業(株))

社会人3年目の所感

佐藤 絵理子



やりたいことをあきらめて後悔するよりやってみて失敗して後悔する方がよい、と後期博士課程に進み、大学で研究者として働き始めて3年目になります。その間二度転職し、札幌、仙台、福岡と各地を転々としてきました。博士研究員という任期付きポストのため、移動が多いことは覚悟していましたが、こうも慌ただしい生活になるとは予想していませんでした。現在は、ヘンケル先端技術リサーチセンターという大学と会社の共同研究所で、主に接着剤の研究に取り組んでいます。共同研究所とは言うものの会社が全額出資しているため、学術的に興味深い結果が得られても製品化の見込みがないまたはコストが見合わない判断されれば研究は打ち切りになりますし、当然特許を取るまで論文や学会発表はできません。論文数を稼ぎ、学会で顔を売りたい我々若手研究者には一見ストレスの多い環境ですが、産学の連携の重要性を理解するよい機会だとプラスに考えています。儲かる研究の「副産物」としていかに面白い論文を書くか、と智慧をひねるのも悪い経験ではないと思います。

大学の独法化や再編で若手研究者のポストはほとんどが任期制となり、定員も減少傾向にあります。一方でテニユア制の導入など明るい話題もあります。努力すれば報われる世界ではありませんが、しないことには何も始まりません。最後にはなんとかなる、と前向きな楽観思想で研究者生活を楽しんでいきたいと思っています。

最後になりましたが、大阪市立大学のますますの発展をお祈りいたします。

(応化・平成12年卒・16年工学研究科化学生物系専攻後博修了・近畿大学分子工学研究所博士研究員)

建築学科の近況

横山 俊祐



建設業界も冬の時代を脱し、卒業生の皆様には、ますますお元気でご活躍のことと存じます。本学赴任3年目の不慣れな身ながら、学科主任及び都市系専攻長を務めています。

3月には、環境工学分野の西岡利晃先生が定年退職され、「風に吹かれて」というスマートな題目で最終講義が行われました。退職後も悠々自適の生活とは無縁で、本学の非常勤講師や研究・調査活動等、多忙な日々を送っております。

学生の進路では、学部・大学院生ともに殆どの就職希望者が内定しています。今年の特徴の一つは、設計コンペにも継続的に入選するなどの実績もあって設計指向が強く、施工監理への志望が減少していることです。このままでは、凶面は書いても肝心の建物が造れなくなるという危機的な状況を迎えかねません。ものづくりの魅力や意義を伝える教育の重要性を痛感しています。また、「他大学へ」や「他大学から」を含めて大学院への進学者が20名を超えたことも特徴です。大勢の卒業生の方にリクルートにお越しいただいたにも関わらず、ご期待に応えられずに申し訳なく思います。

昨年11月にはJABEE（日本技術者教育認定機構）を受審し、無事に認定を得ることが出来ました。審査員からは「少人数教育をはじめとして羨ましい教育環境」との評価をいただきました。反面、今年度からスタートした独立行政法人化や教員数の20%削減にともなう大幅な組織改編など、教育環境の質に関わる変革が求められています。そうしたなかで、世間一般で囁かれている工学部離れを乗り越え、知性・個性・感性の豊かな学生が育つよう、多様な刺激に満ちた環境づくりに向けて一層努力していきたいと思っております。今後ともご支援の程、よろしく申し上げます。

(工学研究科都市系専攻長 兼 建築学科主任教授)

同窓会？

谷口 徹郎



“同窓会だより”の編集委員として寄稿をお願いしてまいりました。いつも快くお引き受けいただいていたのですが、今年は上手く連絡がとれませんでした。いつかは私も書かなくてはと思っておりましたので、この機会にということ。

私、建築学科の同窓会「建築会」の会計でもあります。ある年、卒業生に会費の納入をお願いしたところ、「何に使うのですか？」何って、年次総会と支部活動の支援と…。「それって必要なんですか？」そんなの当たり前…なんだろうかと

私、今年からバスケット部の部長でもあります。もちろん
[右段上部へつづく]

名前だけの何もできない部長ですが、役目柄、今年のOB会に出席いたしました。同窓会同様に高齢化が進んでおり、そこでも「OB会費を納めるのは当たり前だろう」と。

恥ずかしながら私は、本校に戻ってきたときに「建築会」の終身会費を払い、部長になってあわてて過去のOB会費の一部を払ったという人間です。当たり前といわれた影で、払っておいてよかったと胸をなでおろす小心者です。「何で払わなきゃいけないの」という若い人たちに、当たり前だとはとても言えない。まして世の中は受益者負担の時代です。裏を返せば負担には相応の見返りが必要な時代です。

ということで、「建築会」では名簿（CD-ROM）を、終身会費を納入していただいた方に無料で送付しております。自己満足とは知りつつも、気休めになっています。なっているのですが、OB会費を払ったときに違和感を覚えました。

「見返りを期待しているわけではないな」と。母校や出身クラブを応援する“自然な気持ち”、つまり“当たり前”。私も高齢OBに近づいたようです。ところで、工学部同窓会の会費は…。

(建築・昭和59年卒・大阪市立大学工学研究科助教)

近況報告

染川 大輔



大学卒業後、もう7年が経ちました。同窓生の皆さんお元気でしょうか。私はゼネコンの技術研究所に入り、大学時代に谷池先生に教えていただいた事柄そのままに風工学に携わっております。会社での勤務地は東京なので、しばらく東京在住となっていましたが、この秋から出向で大阪に戻ってまいりました。また、春から後期博士課程に入学したこともありつかの間の学生ライフを楽しんでいるところです。

数年ぶりに大学に戻ってみると、あちこち変わっているところがあり驚くことが多々ありました。大きいところでは、学科の編成が変わったことや、先生方の入れ代わりなどがありますが、学生当時身近だったところでは、本館横の生協がまるでコンビニのようになっていたことや、ガラス張りの新しい建物が建設中であったことなどが挙げられるでしょうか。駅前には99円ショップができ、ちょっといい感じの飲み屋とかが増える中、ランチハウス林のスペシャルランチの味・値段が変わらなかったことだけが、当時を彷彿とさせてくれました。

しかし何よりも驚かされたのが、昼休み明けに坂先生と谷口与史也先生が並んでテニスウェアを着て歩いているのを見たことでしょうか。私が学生のころとのイメージのギャップが激しくてなんとも言えない複雑な心境でした。同窓生の皆さんにおかれましても両先生に負けないよう健康に気をつけて、元気な姿でまたお会いできる日を楽しみにしています。

(建築・平成12年卒・(株)大林組)

都市基盤工学科の近況

東田 淳



卒業生の皆様にはますますご健勝のことと思います。本学科は、昨年、学科名を変更し、教育・研究の質の向上と学科の新たな体制作りに取り組んできました。その一環として、4月には、地盤工学を除く研究室（今は分野と呼びます）の名称を、構造工学→構造及びコンクリート

工学、橋梁工学→応用構造工学、土木計画学→都市基盤計画、土木材料及び河海工学→建設材料及び河海工学に変更しました。

一方、今年から市大が独立法人となり、教員はこれまでの教育・研究と大学運営の二足のわらじから解放されるという淡い期待を持っていましたが、大阪市の職員厚遇問題に端を発した「今後5年間で20%の教職員リストラ」の荒波をものに被り、どの学科も厳しい運営を強いられているのが実情です。本学科も10月に予定していた採用人事をストップせざるを得ませんでした。

教員の異動を紹介します。3月には麓隆行助手が近畿大学に転出されました。4月には大内一先生が構造及びコンクリート工学の教授として着任されました。同じく4月には、角野昇八副学長が本学の専任理事として転出され、その代わりに小田一紀名誉教授（平成16年退職）が特任教授として着任されました。また、3月末には山口隆司助教が1年間の英国留学から戻られました。皆様のご活躍を期待しております。

学生の進路はOBの皆様の力添えもあり、例年よりも順調に決定しています。4回生は、進学が他大学への2名を含めて19名、公務員2名、民間6名（うち建設関係4名）、修士は、公務員4名、民間11名（建設関係8名、メーカー1名、鉄道1名、シンクタンク1名）が内定という状況で、本業回帰の傾向が顕著です。

（工学研究科教授 兼 都市基盤工学科主任教授）

近況報告

石丸 和宏



私は土木工学科に学生9年間、助手1年間の計10年間お世話になりました。現在は明石工業高等専門学校（明石高専）の都市システム工学科に所属しており、こちらに来てからも早10年経ちました。思い返すとこの10年、大学・高専において様々な変化が見られました。明石高専

では平成6年に「土木工学科」から「都市システム工学科」へ改組され、その改組した年の志願者数およびレベルは始まって以来の高水準となりました。今では従来のポジションに落ち着いていますが…。そして、平成16年には国立から独立行政法人へと移行されました。市大においても私の出身の「土木工学科」が「都市基盤工学科」と変更となりましたが、これからもいろいろな再編が続くと聞いております。

〔右段上部へつづく〕

現在、私は同窓会（土木会）の役員として、大先輩そして学生の方々と集まる機会に参加させて頂いております。最近の若い人は同窓会活動にも興味が無く、行事への参加意識が低いと言われておりますが、その土木会に出席する学生さんの付き合いの良さなどは、昔の「土木工学科」からの時代とはさほど変わっていないと思います。明石在住の私はその会合後の付き合いの良い学生さんとの飲み会のため、たいてい終電に乗って帰っています。社会では個人の能力も必要ですが、人とのつながりの重要さは今も昔も変わらないと思います。学生さんは優秀な教員のもと、勉学だけでなく人的ネットワーク作りにも励んで欲しいと思います。これからも、市大は社会の変化とともに様々な変化があると思いますが、優秀な教員・卒業生・学生の方々によって、大阪市立大学がますます発展することを願っております。

（土木・平成3年卒・8年工学研究科後博修了・明石高専助教）

拝啓、平成9年卒業生様

麓 隆行



平成9年に卒業して約10年、卒業したみんなは、元気になっていますか？大阪市立大学やその周辺もずいぶん変わりました。4回生での学術情報センター建設の後、工学部G棟の建設、教養キャンパスの一新など、今も新たな建物が建設されています。周辺では、ABC、北京などの

名店が消え、替わって駅前にコンビニや100円ショップができました。一方で、杉本屋、夏櫛、林、パーパームーンなど、現役のお店も多数あります。みんなの思い出のBOX、場所、店はどうなっているのでしょうか？是非、一度、散歩してください。懐かしさと共に、意外と年を取ったのだと気づきます（苦笑）。

私は市大で育ち、幸せなことに、市大に勤め、7年間後輩たちと触れ合ってきました。我々の頃とはずいぶん気質も変わりました。気になるのは、彼らには建設業界の情報が不足していることです。当然、建設業界への就職も減少しています。都市造りの源である建設業界は、今後も人々の快適な生活と豊かな環境づくりを支えて行くに違いありません。不遇の時代だけで、この技術を廃れさせるのは惜しい。みんなの生の声を、我らの後輩に直接伝えてほしいと願っています。

私は大阪市立大学を巣立ち、平成18年4月より近畿大学理工学部社会環境工学科に勤めています。約130人の学生へのマイクを使った講義や研究室の立ち上げに孤軍奮闘しております。忙しいながらも、新たな環境造りを日々楽しんでいきます。

みんなも、転職したり、重要な役割を担ったり、多忙な日々を送っていることでしょう。そろそろ、みんなで集まって、みんなの苦勞自慢をしたいものですね。その日を楽しみにしております。

（土木・平成9年卒・11年工学研究科前博修了・近畿大学理工学部講師）

応用物理学科の近況

細田 誠



卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか。今年の学科主任である電子物理工学分野の細田です。大阪市立大学は本年度より独立行政法人化され公立大学法人大阪市立大学となりました。運営の独立性に加えて効率化も求められつつありますが、教員一同、教育・研究にも以前に増して力を注ぎ、市大をさらに発展させるべく学生共々ががんばっている次第です。卒業生である皆様も御存知のように、相変わらず応物の廊下は夜の12時を過ぎても蛍光灯が灯っていますし、幾つかの研究室では朝まで明かりが消えません。加えて、年2回のソフトボール大会やその後の飲み会など、相変わらず和気藹々とした雰囲気ですべて作りや勉学に励んでおります。

本年度のニュースとしては、応用物理学科では工学部の他の幾つかの学科と共にJABEE（日本技術者教育認定機構）による技術者教育の認定審査を先年度に受け、めでたく来年度より認可を受けました。

大学院においては平成14年度からの大学院再編により、応用物理学科は電気工学科、情報工学科と合同した電子情報系専攻となっていますが、前期博士課程（修士）への進学率は高く、今年は応用物理学科からは卒業予定者である30名中、25名が合格しました。

就職については、このところ就職活動の開始時期が早まっている状況にあり、2月頃から会社訪問を始める学生もいます。また、自由応募での採用を行う企業が増えており、応募者の能力・適性を厳しく見極める傾向が顕著になっています。本年度の特徴は景気動向および団塊世代の退職等により、企業からの求人件数は例年になく増加しており、多くの学生が有名企業に内定し、就職は好調でした。本年度は、前期博士課程修了予定者は22名で、就職内定者は20名（学校推薦：9名、自由応募：11名）、後期博士課程への進学予定者は1名です。また、4回生の就職内定者は4名（学校推薦：2名、自由応募：2名）です。

最後になりましたが皆様の一層のご活躍、ご健康をお祈りいたします。

追信：昨年度行いましたOBのホームカミングデーは隔年開催の予定であり、また来年度はよろしくお願いたします。（工学研究科電子情報系専攻長 兼 応用物理学科主任教授）



〔横田先生を囲んで（第6回キャンパス交流会にて）〕

近況報告

柳川 重昌



卒業生の皆さんご無沙汰しております。早いものでもう卒業してから37年が経過しました。皆さんはいかがお過ごしですか。私はほとんどの方と違って卒業してから商売一本で来たため、あまり同級生との接触もありませんでした。最近、田中君や斎藤君、奥田君と3月末に一泊でゴルフ旅行をしたぐらいです。それに7、8年前、私が岸和田在住ですので大倉先生ご夫妻、前沢君、乙武君に岸和田祭りを見物がてら自宅に来てもらうという機会を得ました。そしてその2ヵ月後に大倉先生はなくなられました。あとから奥様に聞きますと既に死期は悟っておられたようですが、病院から了解を得てこられた様でした。本当にわれわれにとっ

ていい先生でした。現在、卒業してからずっとそうですが、機械工具問屋を経営しております。切削工具中心でその中でも特に超硬工具がメインの取り扱いです。当時は20名ぐらいの中小問屋でしたが、結構発展して200名弱の中堅どころになってまいりました。中国やタイに現法を作ったり、欧米のメーカーの総代理店になったり、まだまだ日本中世界中を飛び回っている今日この頃です。私も社長になってまだ4年弱ですが、今年の初めからもう一度英会話を習おうと思ひ、出来るかぎり週2回天王寺のベルリッツにかよっています。また昨年12月ごろから毎日早朝、約6キロ1時間10分のウォーキングをしています。それでも出張や雨の日、早朝の英会話があるので週に3、4回ぐらいになってしまいます。私も来年60歳になりますが、人生今までが前哨戦、これからが本番と思っ

（応物・昭和44年卒・大阪工機株代表取締役社長）

卒業後30年以上

結城 邦夫



この度、人見先生から原稿依頼の連絡を頂き驚きました。何度か転動した事もあり、卒業以来、随分の間大学時代の方々と接触が無かったからです。今回は故郷の宮崎県都城市で独立している福森君から私の名前が出たとの事。彼とは今年3月に二十数年ぶりに会いました。

当時を振り返ってみました。入学は昭和47年。新年早々、グアム島で横井庄一さんが27年ぶりに発見され、2月には日の丸飛行隊の“札幌オリンピック”開催、オリンピックが終われば“あさま山荘事件”と入学前から色々な出来事がマスコミ誌上を賑わせました。

〔P10左段上部へつづく〕

応用物理学科の新入生は女性1人を含む20人。入学した時は学内の様々な問題で活動家の学生運動の火が消えず講義や定期テストが行われない事も有りました。

その様な環境が影響していたかどうかはわかりませんが、ボート、テニス、ラグビー、少林寺拳法、弓道他体育会系のクラブに所属していた者が多かったと記憶しています。

4回生の昭和50年は前々年の“第1次オイルショック”の影響で極端な就職難。前年までに応用物理学科の先輩達が就
〔右段上部へつづく〕

職された企業に就職する事は非常に難しい年でした。

私の就職した会社は新入社員16人の内、冒頭の福森君も含め3人が市大・応用物理学科の卒業生でした。それから31年余り、同期生と会う機会は非常に少なくなってしまいました。が、シャープで活躍中の方志君、同期生で紅一点の畑（旧姓・金森）さんとは2年前から年1回程度会って騒いでいます。この便りを見られた同期生の諸君連絡下さい。集まる機会を作りましょう！（応物・昭和51年卒・新晃工業(株)）

情報工学科

情報工学科の近況

辰巳 昭治



卒業生の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。今年度、学科主任を務めさせていただいています。以前の学科主任業務に比べ、より簡素化され、会議回数も少なくなりました。それだけ、必然的に研究・教育活動に時間が取れることに繋がりが好結果をもたらせばよいのですが、世の中、改革・改革と呪文のごとく繰り返し、いつになれば安定な状態に落ち着くことになるのやら、動的に変化する環境に、絶えず気を配り学習し続けることになっていま

す。

学科の教員については、構成メンバーに変化はありませんが、情報ネットワーク分野の阿多信吾先生が、今年4月講師から助教授に昇任されました。

学生については、好況を反映し、就職希望者は左程の苦勞なく内定しています。まだ、学科推薦が主ですが、公募による受験と内定も増えています。一方、4年生の大学院進学希望者が例年になく多く、かつ、成績が良好なため、合格者は定員枠をはるかに超えました。このような状況が常態化していけば、今後、研究活動の活発化が期待されます。さらに、後期博士課程への進学は、まだ充分ではありませんが、昨年に続き、希望者がいます。また、6月ドイツで開催されましたサッカーの世界大会と同時併行して、ロボカップの世界大会もドイツプレーメンで開催され、市大チームも4足リーグに参加しました。参加学生は、精一杯奮闘しましたが、今年も上位進出とは成りませんでした。

最後に、高度なIT技術者の育成には、本格的な業務を経験することが求められます。その際、卒業生の皆様いろいろなご支援をいただくことも生じてくることと思います。そのときには、何卒宜しく願い申し上げます。

(工学研究科教授 兼 情報工学科主任教授)

近況報告

山本 健司



皆様、お元気でいらっしゃいますか。私は慣れ親しんだ大阪を離れ、ここ宇都宮に生活の礎を築いて4年目になります。私は就職後一貫して半導体製造装置（ステッパー）のソフトウェア設計に携わっております。ステッパーとは、レチクルと呼ばれるガラス状の板に書き込まれた

回路パターンをレーザーを使用してウェハに縮小撮影露光するための装置ですが、その回路線幅が非常に微細であるために装置制御にはサブナノメートル単位での精度が要求される場所もあります。この要求を実現するために、メカ・電気、レンズなどのハードウェア、そしてソフトウェアの各分野における先端技術を高いレベルで統合させなければなりません。私は、日々の業務の中でそれらの各領域における最新の技術とふれあいながら、一人の技術者としてよりよい装置を作ることができるよう、自らのセンスを磨き続けたいと考えています。

日常生活の話になりますが、宇都宮は車社会といったこともあり、なかなか体を動かす機会がありません。そのような背景もあり、最近天気の良い日は、マウンテンバイクで通勤をするよう心がけています。会社までの10km弱の道のりを自転車で行くと、車で通勤していた頃には感じられなかった季節の移り変わりをはっきりと自分の体で感じられるようになりました。また、早朝に体を動かすことですっきりとした気持ちで仕事を始められるようにもなりました。皆様にも、心身のリフレッシュのため自転車での通勤・通学をお勧めしたいと思います。

最後になりましたが、大阪市立大学のさらなるご発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(情報・平成13年卒・15年工学研究科前博修了・キヤノン(株))

バイオ工学科の近況

大嶋 寛



バイオ工学科(旧 生物応用化学科)として、新カリキュラムをスタートさせてから2年目になりました。新しく導入した科目も、順調に実行されています。たとえば、生物系学問への導入科目である生物科学入門、化学生物系専攻で行われている研究を通してバイオ領域を学ぶ

バイオ工学概論、問題発見能力やプレゼンテーション能力、さらに論理的な思考や表現能力などを磨くバイオ工学演習、またその一環としての1回生研修合宿などです。これらの科目は1回生から導入され、これらを通して、学生の勉学への取り組みが積極的になったと実感しています。また、教員と学生の意志疎通も今まで以上に図れるようになりました。ただ、最近の大阪市の動きにともなって、教員数が大幅に削減されることになり、工学部としても、学科としても予断を許さない状況にあることが気がかりなところではあります。

さて、バイオ工学科では、今年度末に、山内清教授が定年退職されます。山内先生は、近年、講演でよく中国を訪問されております。また、3月には立花太郎助教授がボストンでの研究活動を終えて復帰されます。残念なこともお知らせしなくてはなりません。昨年12月、荻野健治教授が闘病の末お亡くなりになりました。先生は最後までバイオ工学科のために尽力されました。ご冥福をお祈りする次第です。

卒業生の皆様には、益々ご健勝で活躍されますよう祈念いたします。辛い時も、楽しい時も、また、大学に来て下さい。大学の応援もお願いいたします。

(工学研究科教授 兼 バイオ工学科主任教授)

近況報告

水瀧 雄介



栃木県那須塩原に移り住んで3年が経過しました。那須は田舎ですが、生活には満足しております。と言うのも、都会と異なり夏は涼しいため快適に過ごすことができ、また自然豊かで、温泉にも恵まれた土地柄なため、心身ともに癒されるからです。たまの週末には夏冬問わず

自然を満喫しに、先輩社員と山へでかけることがあります。苦勞して頂上に辿り着いた時の達成感、頂上からの素晴らしい眺め、帰りの温泉入浴などは格別なものです。

ただ、自然は様々な恵みをもたらすばかりでなく、脅威ともなりうることもあります。山での遭難事故がその一例にあたります。万一の事に備えた準備をしますが、万一の事に遭遇しないことが得策です。登山中に雲行きが怪しくなった場合は、途中で引き返す決断をします。このようなことは、研究テーマや事業の展開に通じるものがあるのではないかと思います。「前を向いて突き進む」などのフレーズを耳にし、そのこと自体間違っているとは思いませんが、時には立ち止まって考え、また時には撤退することも必要です。決断の時期を間違えないような仕事の進め方が重要になります。

最後になりましたが、私は現在、ナノ分散の研究に取り組んでいます。頭でイメージ通りに物質が相互作用した時はうれしくてたまりません。さらに勉強して視野を広げ、イメージを膨らますことができる人になっていきたいと思っています。(生化・平成13年卒・15年工学研究科前博修了・大日本塗料株)

知的材料工学科

知的材料工学科の近況

橋本 敏



今年3月には第四期生の20名が卒業しました。うち4名が企業へ、1名が公務員として就職、14名が大学院に進学、1名が他大学大学院に進学しました。また知的材料工学講座の博士後期課程には修士課程の年限を一年短縮して1名が進学し社会人ドクターと合わせて4名が在籍

し研究に勤しんでおります。

今年3月には森雄造先生が定年退職されました。先生は35年の長きにわたり工学部の教育・研究の発展に尽くされ、特にアルカリハライド中の色中心に関する業績には顕著なものがあります。知的材料工学科設立に貢献され、また国際協力事業団技術支援委員会委員長としてのご活躍は記憶に残ると

[右段へつづく]

ころです。後任の教授として(独)産業技術総合研究所・先進製造プロセス研究部門、生体機構プロセス研究グループ長の横川善之氏をお迎えいたしました。セラミック材料工学、バイオデザイン学、バイオニクス材料工学特論等の講義を担当されております。バイオニクス・マテリアル・デザインによる先進セラミックスの研究開発の拠点作りに邁進されております。

高坂達郎講師は日本機械学会機械材料・材料加工部門の優秀講演論文賞を、中村篤智講師は日本金属学会より新進の研究者に贈られる奨励賞を受賞しました。また、今秋ドイツで開催された国際会議「超微細粒材料2006」において発表した論文“Texture Development and Deformation Twinning of Copper Single Crystal due to ECAP”、M.Kinoshita, H.Miyamoto, T.Mimaki, A.Vinogradov, S.Hashimoto, R.Yodaがベストポスター賞に選ばれました。最後になりましたが卒業生の皆様のみますのご活躍とご発展を祈念いたします。

(工学研究科教授 兼 知的材料工学科主任教授)

近況報告

蘆田 康二



平成18年3月に知的材料工学科を卒業し、改めて機械物理系専攻材料知能工学研究室に所属し、日々授業、研究に励んでおります。

大学院の授業では学部頃とは違い、先生から与えられるだけでなく、自らが主体となって調べ、発表する機会が増えました。ただ知識を与えられるだけでなく、自らが主体となって考えるので細部までの疑問が見えてき、また周りから指摘もされるのでさらに理解が深まりました。

研究では定期的に教授と打ち合わせをすることにより、研究の内容やこれからの計画などを一緒に考えることができる

[右段上部へつづく]

ので、日々有意義に過ごしています。

また、日々の研究、授業と平行して、サークル活動として『本田宗一郎杯HONDAエコノパワー燃費競技全国大会』に参加しています。この大会はエコランと呼ばれ、「1リットルのガソリンでどこまで走れるか」をコンセプトにしています。自作の車体に規定のエンジンを載せてサーキットを規定数周回し、消費した燃料から消費を競う大会です。先輩の代から数えて今年で5回目となり、今年は去年の記録である210kmを大きく上回る550kmという記録を達成しました。このように燃費を向上させるという同一の目標を掲げ、達成し、さらに仲間たちと様々な知識、意見を交換し、モノ作りの楽しさを改めて感じる事ができるのがエコランの良いところだと思います。来年も、今年を上回る記録更新を目標にがんばって行きたいと思います。

(知材・平成18年卒・工学研究科機械物理系専攻前博1回生)

環境都市工学科

環境都市工学科の近況

矢持 進



卒業生の皆さん、元気にやっていますか？

まずご報告することは、今年の3月末に皆さんもお世話になった都市リサイクル分野の山田優先生が、名誉教授の称号を受けられたのち本学を退職されました。代わって、貫上佳則先生が同分野の新しい

教授として昇任され、また、京都大学から水谷聡先生を助教授として迎えて都市資源リサイクル工学の講義や演習ほかを担当していただいています。

皆さんもご存知のように本学科は設立から8年目の比較的新しい学科です。2005年度4回生のうち、19名が大学院に進学し(本学17名、他大学2名)、4名が地方自治体や不動産関連の民間企業などに就職しました。また、本学科を卒業し大学院(都市系)に進学した学生のうち2名が難関といわれる国家公務員1種試験に合格しました。2006年度についても地方自治体や民間企業への就職は比較的順調に推移しており、環境都市づくりを目指す若者を社会に送り出すことに手ごたえを感じています。

新しい内閣になり教育改革が大きく叫ばれる昨今、文部科学省は「環境」を第3期科学技術基本計画の最重点項目のひとつに位置づけています。また、大阪市立大学が掲げる標語として「都市・大阪を背景にした市民の大学」と謳われております。このような中、環境都市学科は学科としてのオリジナリティを高め、都市と環境に関するユニークな教育と研究を展開したいと考えております。激動する大学に卒業生の皆様の叱咤と励ましを節にお願い申し上げます。

(工学研究科教授 兼 環境都市工学科主任教授)

近況

中藤 香織



私は、平成18年3月に環境都市工学科を卒業し、同4月から堺市の職員として働いています。上水道部に所属しており、配水管を更新する設計図を作成し、工事の現場監督をすることが私の仕事です。水道で現場仕事のある課に配属された初の女性ということで、いろいろと不安が

ありましたが、勤め始めて半年が経ち、仕事環境にも慣れ、職場の方も親切で、恵まれた環境にいると実感しています。市民の方の生活に欠かせない水道という仕事に就き、安全でおいしい水を提供していくため、大学で学んだことを活かし新たに学びながら、これから頑張っていきたいです。

大学4年間を振り返ってみて、様々な環境問題について学び、プレゼンテーション能力、自分で調べる力が身に付いたように思います。また、素敵な仲間や先生方に出会えたことを幸せに感じます。大学院に進学したり、社会人になったりと進路は様々ですが、いつか同期みんなで集まって、この4年間を一緒に過ごした思い出や、近況など楽しく語り合えたらと思います。

(環都・平成18年卒・堺市役所上水道部)



[第6回キャンパス交流会での山田優先生(後列中央)]

国公立大学の独立法人化により、大学を物心両面から強力に支える新しい大学支援組織の構築が重要になってきました。

平成17年4月1日に設立された、新しい全市大的な大学支援組織「大阪市立大学学友会（Osaka City University Associates）」は、会員各位からの寄付金を財源に、下記の教育・研究支援事業を実施しています。

(1)キャリアアップ・就職の支援：

社会の第一線でご活躍の卒業生による資格取得の連続講座の提供、就職の相談・企業説明会の開催。

(2)短期留学の支援：

母校が国際交流協定を結んでいる外国の大学への留学費の補助。

(3)学生国際交流の支援：

母校の外国人留学生と日本人学生との交流会の開催。

(4)緊急就学支援：

不測の経済的理由で就学維持が困難になった学生に、学費等を短期的に緊急支援。

(5)新入生の保険加入支援：

学友会入会新入生の「教育研究災害障害保険等」への加入金の負担。

(6)教員・学生の顕彰：

学業成績の優秀な学生、優れた課外活動で大学の発展・名声高揚に寄与した学生、優れたテキストの出版・教育方法で教育に貢献した教員の顕彰。

(7)大学院生の旅費等補助：

国内外での学術的会合で研究発表するための旅費等の補助。

(8)学部・研究科の支援：

学部・大学院研究科での特色ある教育・研究の費用の助成。

なお、設立発起人会以降の主要経過の概略は下記の通りですが、詳細は「大阪市立大学学友会ホームページ」をご覧ください。

2005年（平成17年）

3月：13日に「学友会設立発起人会」と「学友会第1回評議員会」が開催され、大阪市立大学学友会（会長：高原慶一朗（商学部・昭和28年卒・ユニチャーム代表取締役会長））の'05年4月1日発足を決定。

4月：平成17年度の学部・大学院新入生に対する学友会の説明・入会受付（4・6日）

5月：全卒業生・在校生・現・旧教職員に対する学友会の説明・入会要請活動（20日～30日）

6月：「大阪市立大学創125周年記念募金」を開始。

11月：23日、「大阪市立大学学友会設立記念行事」を高原会長ほか約900名が出席してホテルニューオオタニで開催。記念式典では成績優秀な学部生・大学院生を表彰、モンテリオール世界シンクロ大会で銀メダルを取った小林寛美（経済学部3回生）さんにも特別賞を授与。記念講演会では建築家の安藤忠雄が「都市と大学・境界を越えて」と題した記念講演後、パネルディスカッション「大阪市大の新たなステージ人／都市／大学」を開催。その後、約2時間の記念パーティを催し、新しい母校支

[右段の中程へつづく]

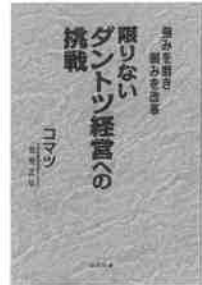
同窓生の著書紹介

限りないダントツ経営への挑戦

—強みを磨き 弱みを改革—

坂根 正弘 著

（機械・昭和38年卒）



著者は人生には3つの節目があると言っている。

1つ目は「どんな高校・大学に入るか」、2つ目は「どんな仕事に就くか、どんな会社に入るか」、そして3つ目は「どんな人と結婚するか」であると。

また著者は、どこにでもいる一学生として就職活動にのぞみ、コマツを選んだ。

そして、バブル崩壊のどん底から自らの信念と行動で難局を乗り越え、V字復活を成し遂げた立役者になったのである。

本書は、今後の日本の企業経営やものづくりへの指針を与えてくれるビジネスマンの必読書であるとともに、これから就職しようとする若者に、夢と希望を与えてくれる1冊である。（日科技連出版社 1800円）

援組織としての学友会設立の喜びと今後の努力を相互に確認。

2006年（平成18年）

1月：キャリアアップ支援事業（会計士・弁護士講）を開始。

2月：第1回学生国際交流会を田中会館で開催（8日）。

4月：平成18年度新入生に対する学友会の説明・受付（3日）。第2回学生国際交流会（英語）を田中会館で開催（21日）。

5月：平成18年度大学院生旅費等補助の第1期募集で149件の応募があり、84件を補助対象に採択。

6月：平成18年度第1回役員会・第1回評議員会を学術情報総合センター大会議室で開催、平成18年度事業・決算報告、平成18年度予算・事業計画、会則改正、新評議員・役員等を承認（17日）。

8月：平成18年度大学院生旅費等補助の第2期募集で109件の応募があり、現在審査中。

10月：学友会募金委員会で同窓生・教職員・学生の入会状況、募金額の推移、募金活動の現況等を確認の上、今後の募金活動の進め方を審議（31日）。

11月：平成18年度第2回役員会で補正予算、役員・評議員の選任方針を審議。顕彰式典で学生に対する優秀成績賞・学友会賞、教員に対する優秀教育賞・優秀テキスト賞等の授与後、高原記念館の学友ホールで式典出席者による竣工記念懇親会を開催（23日）。

事務局年報 (2005・12～2006・11)

2005年 (平成17年)

12月：個人情報業務委託契約を(株)廣濟堂と締結(12日)。
'05年度第4回財務委員会で「後期博士進学者修学援助を
検討」、市大広報第58号を学外の理事・評議員及び大学院
生評議員に配布(15日)。会報第21号を郵送・学内配布(18日)。

2006年 (平成18年)

1月：'05年度第5回財務委員会で「修学援助の支給案
を検討」(12日)。第17回評議員会通知を郵送(13日)。新
保・志野両監事の会計監査(16日)。「'05年度最終理事会で
「第17回評議員会の議案及び、第6回キャンパス交流会の
行事を確定」(26日)。

2月：母校の学術情報総合センター文化交流室で第17回
評議員会を開催、第17期第初年度('05年度)の経過・収
支決算報告、第17期2年度('06年度)の理事会役員・事
業計画・予算を決定(右の段参照)。その後の第6回キャン
パス交流会(恩師・同窓生約80名参加)では、坂寿二教
授と藤澤久美女史の講演を拝聴後、学生ホールでの懇親会
で一年振りに歓談(18日)。

3月：当会の案内・会則、学友会入会要請状等の'06年
度新入生への配布を学務係に依頼(8日)。工学部・工学
研究科送別式に貴志会長・田守副会長及び理事有志が出席、
博士号授与式には貴志会長が参列。'06年度第1回財務委員
会で「修学援助支給案を作成、外貨運用基金の表記法を変
更」(24日)。

4月：学友会の'06年度新入生入会受付に協力(3日)。
'06年度第1回同窓会連絡会運営委員会で「同窓会費の配
分方法、文化交流センター分担金及び連絡会会費を決定」
(20日)。市大広報第59号を学外理事・評議員及び院生評
議員に配布(28日)。

5月：'06年度第2回財務委員会で「'06年度修学援助ス
ケジュールを決定」(22日)。第115回市大ポート祭でアド
バルーンを掲揚(27・28日)。「'06年度第1回理事会で「第
5回ホームカミングデーでの工学部行事、来春の評議員会
と同窓の集い、後期博士進学者修学援助案、理事会役員構
成の変更を審議」(30日)。

7月：'06年度第3回財務委員会で「外貨運用指針を検
討」(20日)。「'06年度第2回理事会で「後期博士進学者修学
援助案を承認、理事会役員構成の変更を審議」(28日)。

8月：市大広報第60号を学外理事・評議員及び大学院生
理事に配布(11日)。工学部学術情報交流センター夏季休
館(14～18日)。会報第22号の表紙絵を埜口良二氏(土木
・昭和22年)に依頼。

9月：後期博士課程進学者修学援助を申請の2名(8日)
を書類審査し(21日)、2名に規定額を支給(22日)。「'06年
度第2回同窓会連絡会運営委員会で「第5回ホームカミン
グデーの企画、文化交流センター談話室の植物購入費分担
金を決定」(22日)。「'06年度第4回財務委員会で「援助金支
給経過を了承、外貨運用方針を検討」(20日)。「'06年度第1
回行事企画委員会で「第5回ホームカミングデーでの機械
工学科の見学会・懇談会の開催案を決定」、「'06年度第3回
理事会で「後期博士進学者修学援助の支給を承認、理事会
役員構成を継続審議」(27日)。

10月：11月3日の第5回ホームカミングデー案内状を学
外理事・評議員・機械科卒業生等約770名に発送(16日)。

11月：第5回ホームカミングデーで「機械工学科の見学
会・懇親会」を併催(3日)。故繁澤孝理事・元会長の葬
儀に会長代理(人見理事)が参列(13日)。会報第22号校
了(30日)。

(1) 第17期初年度 (2005年1月～12月) 収支決算報告

(イ) 経常費収支決算表(円)

収 入		支 出	
終身会費	6,321,000	会議費	220,705
預金利息	818	行事費	230,644
雑収入	565,000	会報	1,789,562
前期繰越	7,658,922	会員名簿	104,496
		協賛費	500,505
		渉外費	38,219
		通信費	79,707
		事務局費	2,825,129
		次期繰越	8,756,773
合 計	14,545,740	合 計	14,545,740

(ロ) 借貸対照表(2005年12月末、円)

借 方		貸 方	
振替口座	742,354	累計剰余金	7,658,922
普通預金	8,777,340	当年剰余金	1,097,851
定期預金	47,307,470	特別基金	74,226,295
有価証券	26,155,904		
合 計	82,983,068	合 計	82,983,068

(2) 第17期2年度 (2006年度1月～12月) 理事会役員

会 長：貴志 義昭(建41)
副会長：中田 忠(機26) 山口南海夫(電44) 田守 芳勝(物38)
理 事：副松 晃(機26) 下田 隆二(機29) 人見 宗男(機31)
南 斎 征夫(機39) 東 恒雄(機41) 宮本 万功(機43)
笠上 文男(機50) 栗政 幸一(電31) 建部 渉(電35)
矢野 孟彦(電36) 行藤 三男(電36) 南 繁行(電45)
串坂 徹(電55) 村治 雅文(電62) 津田 恒次(化29)
廣岡 孝一(化29) 福山 泰夫(化32) 山田文一郎(化修40)
三浦 洋三(化42) 大嶋 寛(化49) 坂内 幾男(建24)
大東 清四(建25) 都築 周(建29) 多胡 進(建34)
坂 壽二(建42) 赤崎 弘平(建45) 山道 正男(建45)
谷口 徹郎(建59) 井上 保(土26) 吉村 憬(土32)
園田恵一郎(土36) 伊藤 和雄(土38) 湊 勝比古(土41)
日野 泰雄(土50) 大島 昭彦(土55) 繁澤 孝(物32)
川上 一夫(物35) 増岡 俊夫(物38) 和倉 慎治(物45)
宇佐美照夫(物46)
監 事：新保 市弘(電35) 志野 太一(物40)

(3) 第17期2年度 (2006年1月～12月) 事業計画

- ① 会報第22号の12月上旬発行・配布。
- ② 工学部・全市大行事等への協力。
- ③ 会員相互の横断的交流・親睦の促進。
- ④ 第18回評議員会の開催と第19回評議員会の企画。
- ⑤ 特別基金利息分を「後期博士課程進学者修学援助」に活用。

(4) 第17期2年度 (2006年1月～12月) 経常費予算(円)

収 入		支 出	
終身会費	6,000,000	会議費	220,000
預金利息	1,000	行事費	450,000
雑収入	6,000	会報	1,800,000
前期繰越	8,756,773	会員名簿	180,000
		協賛費	500,000
		渉外費	100,000
		通信費	100,000
		事務局費	2,755,000
		次期繰越	8,658,773
合 計	14,763,773	合 計	14,763,773

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2006.10.1現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	都市基盤工学科	応用物理学科
野邑 奉弘 2663	南 繁行 2760	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	大内 一 2173	中山 正昭 2739
西村 伸也 2664	武智 誠次 2677	澤井圭二郎 2694	谷口 徹郎 2707	角掛 久雄 2723	溝口 幸司 2174
伊與田浩志 2963	會田 田人 2678	有吉 欽吾 2791	木内 龍彦 2706	北田 俊行 2734	金 大貴 3087
東 恒雄 2666	高橋 秀也 2679	島中 康夫 2979	坂 壽二 2708	山口 隆司 2765	中山 弘 3088
加藤 健司 2665	重田 和夫 2761	南 達哉 2980	谷口与史也 2709	松村 政秀 2735	福田 常男 2738
脇本 辰郎 2965	青笹 正夫 2680	三浦 洋三 2798	那谷晴一郎 3076	東田 淳 2725	細田 誠 2742
川合 忠雄 2667	草開 稔 2681	圓藤紀代司 2697	梅宮 典子 2710	大島 昭彦 2996	菜嶋 茂喜 3089
佐藤 嘉洋 2670	田中 健司 2975	米澤 義朗 2770	大倉 良司 2711	日野 泰雄 2730	熊谷 寛 2879
川上 洋司 2668	向井 孝彰 2792	辻 幸一 3080	杉山 茂一 2176	内田 敬 3099	小林 中 3030
脇坂 知行 2671	宮崎 大介 2877	米谷 紀嗣 2984	藤本 益美 2989	吉田 長裕 2731	中村 勝弘 2768
瀧山 武 2672	辻本 浩章 2685	松本 章一 2981	徳尾野 徹 2713	角野 昇八 3078	寺井 章 2748
高田 洋吾 2970	村治 雅文 2976	小島 誠也 2797	横山 俊祐 2199	鬼頭 宏明 3050	杉田 歩 2904
			中谷 礼仁 2714	小田 一紀 2780 (特任教授)	
情報工学科	バイオ工学科	知的材料工学科	環境都市工学科	共 通	事務室等
濱 裕光 2772	井上 英夫 2782	澤田 吉裕 2660	赤崎 弘平 2717	(応用数学)	学務係 2653
柳原 圭雄 2773	笠井 佐夫 2783	逢坂 勝彦 2962	嘉名 光市 2715	多羅間茂雄 2669	同 2651
鳥生 隆 2684	北村 昌也 3091	高坂 達郎 2182	姥浦 道生 2716	鈴木 広隆 2712	学情サブセンター 2657
平井 誠 2683	大嶋 寛 2700	元木 信弥 2661	中尾 正喜 2993	(機械工作室)	
中島 重義 3096	東 雅之 3092	山崎 友裕 2181	西岡 真稔 2718	吉岡 真弥 2967	
辰巳 昭治 2688	五十嵐幸一 2699	大島 信生 2961	鍋島美奈子 2719		
上野 敦志 3081	田辺 利住 3094	橋本 敏 2673	矢持 進 2175		
岡 育生 2779	長崎 健 2696	A・ビノグラドフ 3049	重松 孝昌 2732		
阿多 信吾 2191	山内 清 2703	兼子 佳久 2179	森 信人 2733		
原 晋介 2795	立花 亮 2702	横川 善喜 2743	貫上 佳則 2728		
杉山 久佳 2796	立花 太郎 2167	中村 篤智 2741	水谷 稔 2727		
辻岡 哲夫 2192	東 秀紀 2168	岸田 逸平 2741			

編集後記

今までわが国では殆ど例のなかった竜巻による甚大な被害が発生し、風雨による深刻な自然災害が年々グローバル化するように感じられます。

さて、ご存知の通り、母校も本年4月より「公立大学法人大阪市立大学」となりまして、予算と定員の削減と言う厳しい条件での大学改革が始まります。卒業生各位にも多大のご協力とご支援が強く求められる時代になったと思います。

本号の表紙絵は、再び埜口良二氏(土木・昭和22年卒)にご登場頂きましたが、多くの会員からの色々な作品を期待しておりますので奮ってご協力下さい。

また、本号では本年3月にご定年の、森雄造名誉教授(知材)にご寄稿頂いておりますので、是非ご一読下さい。

なお、本号では初めて「会員著書紹介欄」を設け、坂根正弘氏(機械・昭和38年卒)の著書をご紹介いたしました。

裏表紙に掲載の「工学部同窓会の集いー同窓懇親パーティー2007ー」は、会場が「大阪弥生会館」に変更されておりますので、お間違いないようにご参加下さい。

では、良いお年をお迎え下さい。

(N. Y. 生)

編集委員

○山口南海夫(電気・昭和44年卒) 南齋 征夫(機械・昭和39年卒)
 △大嶋 寛(応化・昭和49年卒) 村治 雅文(電気・昭和62年卒)
 谷口 徹郎(建築・昭和59年卒) 大島 昭彦(土木・昭和55年卒)
 増岡 俊夫(応物・昭和38年卒) 人見 宗男(機械・昭和31年卒)
 (但し、○:委員長、△:副委員長)

第18回評議員会のお知らせ

前略 評議員各位には当会のために、色々のご協力頂き誠に有り難うございます。

さて、第18回評議員会(平成19年評議員会)を、下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い致します。

記

日 時: 2007年(平成19年) 2月23日(金)
 午後5時30分~6時20分

会 場: 大阪弥生館 2階 (裏表紙地図参照)

なお、ご欠席の場合の委任状(後日郵送)は、2007年2月19日(月)までに必ずご返送下さい。

工学部同窓会の集い 同窓懇親パーティ2007

来春は、恒例の“工学部同窓会の集い”を下記の通り開催致します。

当日は、新進気鋭の高田洋吾氏（本学工学研究科講師・平成5年機械卒）にお願いして、『魚の推進メカニズムに倣う魚ロボット』のお話をして頂くことになっております。

また、ご定年恩師や東恒雄工学研究科長兼工学部長にもご出席いただく予定です。
親しい同期生や職域の同窓生等をお誘い合わせの上、多数ご参加下さるようお待ちしております。
特に、ミニ・クラス会やミニ職域会としてのご参加は大歓迎です。

記

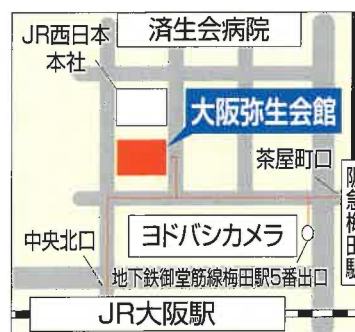
★日 時：2007年2月23日(金曜日)、午後6時30分～午後8時30分

★会 場：大阪弥生会館

大阪市北区芝田町2丁目4-53
(TEL:06-6373-1841)

★会 費：6,000円(当日受付)

参加申込(1)連絡事項：①氏名、②学科(専攻)名、
③卒業(修了)年、④ご住所
(2)連絡期日：2007年2月16日(金)



連絡先：大阪市立大学工学部同窓会事務局

558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

FAX=06-6605-2769

メールアドレス=dousoukai@office.eng.osaka-cu.ac.jp



〔第56回(2006年)銀杏祭会場〕



〔高原記念館(平成18年10月竣工)〕